

第1回懇談会での主な意見等について

<学校に関すること>

- 一人一人の子どもたちを大事にする教育をするための学校設備を計画してほしい。
- 習熟度別、個別指導などに対応できるスペースが必要。
- 生徒数は減るが一人一人にかかわるスペースの広さが必要。今現場にいる子どもたちの意見を聞いていただきたい。
- 余分があるクラス数をしっかり確保いただきたい。
- 中学校が学校としての役割を果たしたうえで中高生が寄れる場所としてコミュニティふらっとが整備されるというのが一番よい。
- 熱中症対策として、運動施設は集約された室内中心の建物があるのが理想。
- 10年後、20年後に、クラス数が減った場合、中学校として整備した部分を集会施設側に移すことは検討しているか。
- IT化や個別指導、アクティブラーニング化を推進していくと、スリム化を図ったとしても機能的には向上、拡張せざるを得ない。面積に関しては慎重な検討が必要。

<コミュニティふらっとに関すること>

- 中学生のセキュリティー・プライバシーに配慮してほしい。
- 中高生の放課後の居場所など様々な使い方ができる施設にしてほしい。
- 若い世代が使える時間や曜日を設けてほしい。
- 子どもたちがコミュニティふらっとをどう考えるのか、意見聴取が必要ではないか。
- 地域の様々な世代が交流する場となしてほしい。
- 昼間にぎやかな地域交流イベントと静かに学ぶ学校の場の共存ができるか。音の問題についてもしっかりと検証しながら設計に生かしてほしい。

<共通・その他>

- 基本方針を決めるに当たり、先生方のご意見も集約してほしい。
- 複合施設について他区、他県の先行事例やモデルプランを共有してほしい。
- 先行事例の中学生たちが、新しくなった学校を実際どう思っているのか、使い勝手がどうなのか、まで踏み込んで調べてほしい。
- 中学生の意見を聴くワークショップが必要。
- 学校と集会施設を完全に分ける形になると施設の相互利用、協働が進みにくい。
- 併設という観点から施設管理手法について検討が必要。中学校とコミュニティふらっとの運用方法を別個に検討すると、効率的な運用方法にならない。
- 協働を促していく仕掛けと管理運営のバランスが課題。使う人は使う、使わない人は使わない施設にならないように。
- 中学生らしい探求ができる環境作りが必要。
- 震災救援所としての活用方法についても配慮してほしい。
- 各階、複数のパーティション機能(手動式シャッター)の設置してほしい。
- 震災救援所の備蓄品を補完する校舎内防災倉庫の設置してほしい。

○常設型仮設トイレの設置をしてほしい。